

長期戦略:テーマ 「学修支援の充実」

提出日 2019年 8月 28日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	宮田教務機構長 (教務機構長)	実施計画の 担当部署	教務機構
-----------------------	--------------------	---------------	------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(13)-② 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立	(2020)年度	(2022)年度	必要⇒【必須型】(全 学部または全研究科 での取組みが必須)	不要
内容 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組みを確立し、学生の学びをサポートし、残留生、退学者をださないキャンパスを目指す。アカデミックアドバイス制度は実施から4年がたち、現在行われている対象学生の見直しなどの検討も必要となっている。 — 以下、SGU時の文章 — 本学では、従来から成績不振者へのサポートを目的とした様々な指導を学部ごとに実施してきたが、GPAのさらなる活用と学生に対してより適切かつ高度な学修支援を行うという観点から、2015年度より「アカデミックアドバイザー制度」を全学的な仕組みとして導入する。 アカデミックアドバイザーは、学部ごとに人数を定め、学部所属の専任教員から選出するものとする。各学部は修得単位数、GPA、出席状況のいずれか、もしくは複数を用いて指導対象となる学生の基準を定める。指導対象学生に対しては、アカデミックアドバイザーが個別面談および学修指導等の修学上の支援を行う。 制度導入後は、教育力向上(ファカルティ・ディベロップメント)部会において本制度の運用状況に関する情報共有を行い、より一層の改善等に取り組む予定である。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	面談後に、単位取得が前年度より改善した学生数の割合	$\frac{\text{各学部の改善率(当該年度アカデミックアドバイス面談者のうち、単位取得が前年度より改善した学生数)}}{\text{当該年度アカデミックアドバイス面談者数の単純平均}}$ (改善の判断基準は各学部で設定する)		
指標2				
指標3				

目標1<指標1>面談後に、単位取得が前年度より改善した学生数の割合

	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
目標	35%	40%	45%	50%
実績				

目標2<指標2>

	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
目標				
実績				

目標3<指標3>

	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
目標				
実績				

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
アカデミックアドバイザー制度の確立	策定段階	アカデミックアドバイザー実施状況調査、課題抽出、取り組み計画	実施	実施	実施	実施
	2020 年 3 月 末段階	—				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2020 年 3 月 末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2020 年 3 月 末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階					
	2020 年 3 月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2020年度 承認	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2020年度 承認	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	
() 年度	
() 年度	

5. 今後の課題及び方向性

(2019) 年度	本制度実施上の各学部における課題（2020 年 2 月 FD 部会で報告いただく予定）に対して、FD 部会等を通じて全学的に情報共有を図り、課題解決に向けて検討する予定である。
(2020) 年度	
(2021) 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
() 年度	